



SUSTAINABILITY REPORT 2024

サステナビリティレポート 2024





総合試作メーカーとして、 常に時代の一步先を行く

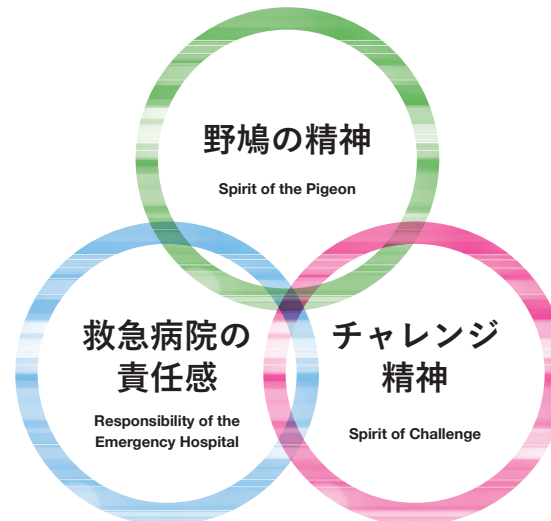
PURPOSE

豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます

「2050年カーボンニュートラル」の実現、さらにはその先の未来へ向けて…。トピアグループは、豊かな未来の実現に向け、ステークホルダーの皆様との共創を図るとともに、環境・人・社会の変化と要求に自覚と責任を持ち、サステナビリティ経営を加速させていきます。



経営理念



野鳩の精神

野鳩の精神で積極経営を…

野鳩は 囲いの中で保護され 与えられるエサを待っている鶏とは違い
常に広く エサを求めて 自由に大空をはばたく
自らの目と足で 生き抜く活力をみつけ出し 新しい価値の創造を成す

救急病院の責任感

顧客優先の精神に徹し 緊急を要する時にも 受入れ態勢万全を常とする
どんな不可能と思われる事態でも
可能とする努力を惜しまず 最善を尽くし 信頼を築く

チャレンジ精神

未知への挑戦 卓越するものへの挑戦こそが 明日への飛躍
未経験ゾーンへの突入こそが 未来への突破口であることの認識のもと
全てを勉強と心得て挑戦すべし

編集方針

編集方針

トピアグループを取り巻く外部環境は一層多様化、複雑化し、気候変動による災害の甚大化、戦争や政情の不安定化など、予測困難な状況が継続しています。このような経営環境のもと、当「サステナビリティレポート」が、今後の長期的なトピアグループの成長に向けての取り組みについてご理解いただく一助となり、あらゆるステークホルダーの皆様との対話並びに新たな価値創造の共創の契機となれば幸いに存じます。

対象範囲

株式会社トピア（一部、グループを含む）

報告対象期間

2023年4月～2024年3月

発行時期

2024年7月

参考にしたガイドライン

GRIスタンダード

目次

編集方針・目次	2
トピアグループの価値創造	
会社情報	3
トップメッセージ	4
価値創造モデル	6
サステナビリティ	
サステナビリティ経営	8
マテリアリティの特定	9
マテリアリティ	10
マテリアリティに基づくKPIと目標値	11
ESGへの取り組み	
環境	
環境保護に向けた取り組み	12
脱炭素社会の実現に向けた取り組み	13
循環型経済の実現に向けた取り組み	15
社会	
製品安全性確保に向けた取り組み	16
高付加価値製品の開発	17
特集 社内公募デザインをベースに、オリジナルEVを試作	18
多様な人材が働きやすい環境づくり	19
成長を実現する職場づくり	21
社会への貢献	22
ガバナンス	23

会社情報

トピアグループは自動車・航空機・電気製品などあらゆるモノづくりに携わっています。中でも自動車は売上の大半を占め、国内外の主力自動車メーカーと直接取引をしています。

最新鋭の設備・デジタル技術を用いた設計技術と解析技術が当社の強みです。さらにはコンカレントエンジニアリングを進め、品質向上と開発期間の短縮を推進しています。

金属製品の試作では、業界トップクラスの売上実績を誇っており、国内外の自動車メーカーの新型車に当社部品が使われるなど、開発において重要な役割を果たしています。

会社概要

本社所在地 三重県鈴鹿市

設立年月日 1973年8月16日

売上高 240億円（連結）*2024年3月期実績

従業員数 1,129名（連結）*2024年3月末現在

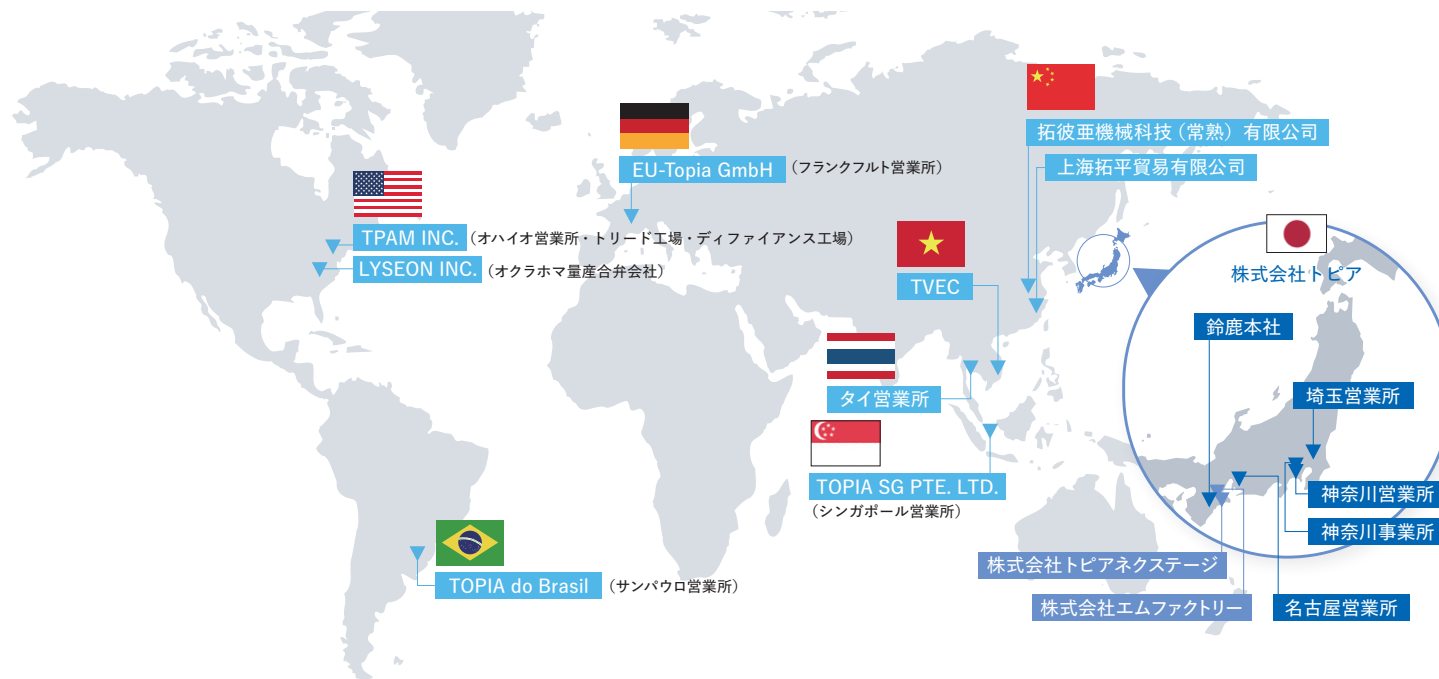
事業内容

自動車をはじめとする様々な分野において、新製品開発・試作・小ロット量産部品の製作を行っています。

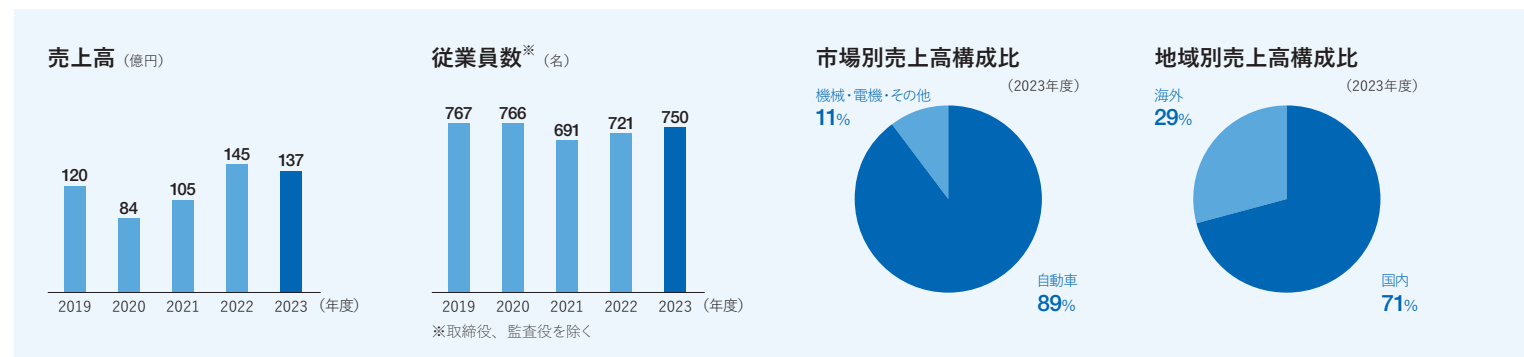
- 自動車デザイン・設計・解析
- 板金試作部品製作および組付け
- 金型製作
- 組付治検具製作
- 少量生産部品製作
- カーボンコンポジット製作

展開地域

トピアグループは、国内7拠点、海外では7か国11拠点でグローバルに事業を展開しています（関連会社を含みます）。



株式会社トピアの業績および従業員数の推移(単体)





トップメッセージ

3つの経営理念と 新たなパーパスで ESG の視点に基づいた サステナビリティ経営を 推進します

代表取締役社長
佐々木 英樹

時代の潮流「ESG」を意識したサステナビリティ経営の実践へ

私たちトピアグループは、自動車を中心とした試作品一つひとつをお客様のニーズに合わせて製作し続ける企業です。現在は海外に7か国11拠点を設け、事業をグローバルに展開しています。

近年、特に海外を中心としたお客様および取引先から、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する当社グループの取り組みや、外部機関による認証取得の有無などに関する問い合わせが増加しています。持続的な成長を遂げていくためには、これまで以上にグローバルスタンダードとなっている ESG を意識した経営を進めていく必要性を認識しています。

こうした状況に対応するために、2021年7月にサステナビリティ推進委員会を設置しました。当委員会での議論などを通じて、カーボンニュートラルの実現が人類にとって解決しなければならないことや、ステークホルダーの皆様との共創を図りながら環境や社会の変化に対して自覚と責任を高める経営を推進していくことが重要であると考え、2023年10月にはトピアグループの存在意義である「パーパス」を「豊かな未来の実現に向けて 変化・要求に挑戦し続けます」と決めました。

さらに、この ESG 視点でのサステナビリティ経営を推進し、KPI（重要業績評価指標）や中期目標を明確に定め、成果を幅広くご理解いただくことが極めて重要と考え、

この度初めてとなるサステナビリティレポートを作成することとなりました。

当レポートの開示内容はまだ十分とは言えませんが、今後サステナビリティ経営を実践し様々な課題に取り組んでいく中で、記載内容の充実を図っていく予定です。トピアグループでは、課題解決やそれに伴う情報開示の取り組みを通じて、国内外の幅広いステークホルダーの皆様からの信用・信頼を高め、今後の事業拡大につなげていきたいと考えています。

「常に時代の一步先を創造する企業」のビジネスモデル

1973年の創業以来、トピアグループは創業者が掲げた3つの『経営理念』を受け継ぎ、一丸となって着実に実践してきました。この経営理念は、自ら率先して新たな価値創造を追求する「野鳩の精神」、お客様最優先の立場で緊急案件や不可能と思われる案件にも最善を尽くす「救急病院の責任感」、そして常に未知・未経験へ挑戦する「チャレンジ精神」です。特に「チャレンジ精神」は、「チャレンジがリスクなのではない。チャレンジしないことこそ、最大のリスクである」という私たちの行動の根幹を成すものです。この理念に基づき事業を実践し、新たなモノづくりを通じて信頼を獲得してきたことこそが、今日のトピアグループの礎になったと確信しています。

私たちはこの理念に基づき、海外の展示会に参加するなど幅広く情報を収集し、各時代で求められているニーズを的確につかみ、そのさらに先を見据えた先行投資を行いながらニーズに応え、様々な課題に積極的に挑戦することで、独自の加工・接合技術を磨き上げてきました。こうした挑戦を通じて、短納期で多様なニーズに対応することが可能になったことに加え、最先端の設備を駆使して高品質・高難度の製品も提供できるようになり、これがトピアグループの大きな強みとなっています。現在では国内外の多くのお客様と取引を展開し、「試作」業界において確固たる地位を築くことができました。

さらに、自動車関連産業のみならず、航空・宇宙、エレクトロニクス、半導体産業など、従来のマーケットには存在しなかった分野においても、長年培ってきた独自のモノづくりを通じて、「常に時代の一步先を創造する企業」としてのビジネスモデルを強化し、私たちの優位性を確かなものとしています。

トップメッセージ

持続的成長への課題「4つのマテリアリティ」

トピアグループでは、サステナビリティ経営を推進するにあたり、2030年度を目標に、今後解決すべき4つの課題「マテリアリティ」を設定し、それぞれの課題に対しKPIと中期目標を設定しました。

具体的には、①脱炭素に向けたCO₂削減や再生可能エネルギー比率等の目標、②循環型経済の実現を目指した廃棄物発生量の削減目標、③安全かつ高付加価値な製品提供として、従業員一人当たり付加価値額の目標値、④成長・安心な職場づくりとして、女性管理職比率、男性育休取得率などの定量目標を設定しています。また、外国人従業員・実習生が比較的多いという点を考慮し、日本語能力試験認定率の数値目標も掲げました。

マテリアリティの特定にあたっては、当社グループの幹部社員と社員約50名から提案を募り、経営陣で議論して決定しました。具体的には、「当社グループと社会の持続的な成長」の実現に資するかどうかという観点から社会課題を抽出して絞り込み、その結果、自社およびステークホルダーの観点から評価して、最終的にこの4つの重要度が高いと判断しました。

マテリアリティの実践のうち、例えば環境面では以前から「環境方針」を定め、紙資源のリサイクル推進、太陽光発電システムやLED照明などの省エネルギーに貢献する機器の導入などを進めてきました。また、地域的に南海トラフ地震の影響を受ける可能性を考慮し、事業継続計画（BCP）の観点からリスクを分散し、事業継続および早期復旧できる体制と仕組みづくりに取り組んでいます。

本格的なサステナビリティ経営を推進していく上で取り組んだパーパスの設定やマテリアリティの特定および推進委員会での議論、そして当サステナビリティレポートの作成などを通じて、グループ全体にサステナビリティ経営に対する理解促進と2030年度の目標達成に向けての結束力が高まってきているように感じています。今後は、こうした取り組みをさらに強化し、目標達成につなげていきたいと考えています。



優れた人財の育成と公明正大な事業活動を通じて 社会から信頼される企業へ

私は、企業経営を進めていく上で、人財の獲得、育成は最も重要な課題の一つであると考えています。当社グループは、海外における製造・販売拠点の増加に伴い、外国語を活用した多様な人財の必要性を認識し、様々な人財育成プログラムを導入してきました。

さらなる成長を目指し、グローバルな事業活動の拡大、高付加価値なモノづくりを実現するためには、次世代を担う優秀な人財の育成が鍵となります。新入社員については、入社後1年間、専任の教育担当がじっくりと育成に取り組み、私たちのビジネスにとって大切な知識や教養などを身に付ける仕組みを導入しています。

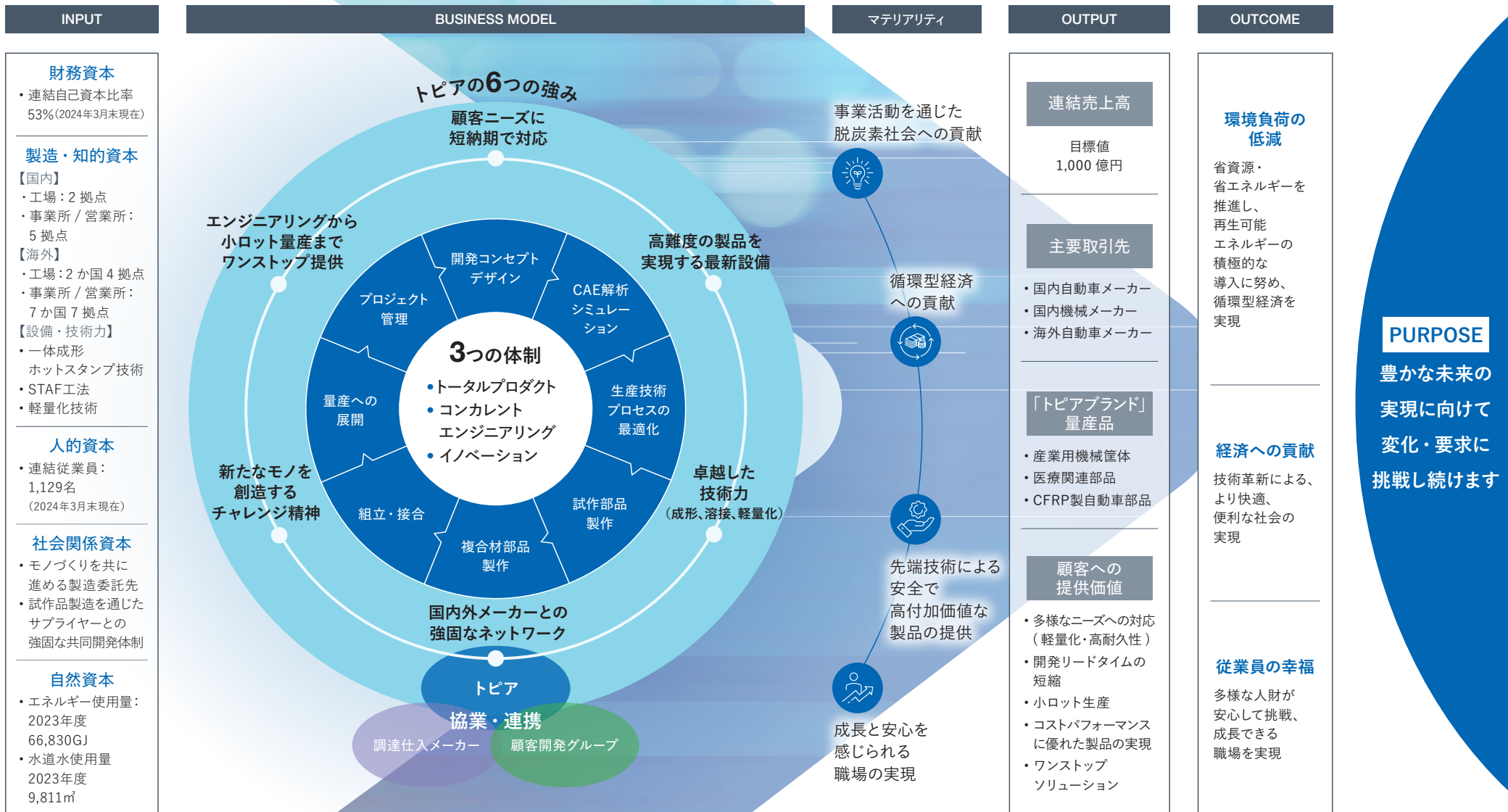
一方で、中長期的な目標を達成するために必要となる人財については、自社内での育成のみならず、即戦力となる人財の獲得や外部との連携など、あらゆる手段を検討し、人財の強化に力を注いでいきます。

私は、サステナビリティ経営とは、正しいことをやっていくことに尽きると考えています。そうした行動や姿勢を取り続けなければグローバルスタンダードでは通用しないからです。このような私たちの行動や姿勢をこのレポート等を通じてしっかり社内外に発信していくことが重要です。今後もサステナビリティ経営の充実に努め、社会から信頼される企業を目指してまいります。

ステークホルダーの皆様におかれましては、今後とも当社グループの活動にご期待いただき、ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

価値創造モデル

トピアグループは、試作品の開発・製造等を通じて、自動車業界をはじめとして、世界中の多種多様なモノづくりの発展に貢献することを目指しています。



PURPOSE

豊かな未来の実現に向けて
変化・要求に
挑戦し続けます

ビジネスモデルの特長

サステナビリティへの取り組みに向けた価値を追求し、3つの体制と6つの強みを実践することで、モノづくりの発展と持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

3つの体制

トータルプロダクト

- ・生産効率を極限まで追求し、継続的な生産性向上、収益の確保を実現します。
- ・企業の継続的繁栄の基礎条件の確立を目指し、あらゆるロスの削減に取り組みます。

コンカレントエンジニアリング

- ・各工程の作業を同時並行的に行う製作期間の短縮が、試作にとって最重要と考えます。
- ・設計段階での解析により問題点を洗い出し工数を減らし、開発スピードの向上とコスト削減を図ります。

イノベーション

- ・製造プロセスにおける変革は独自の新技術につながる信じ、顧客の問題解決に真剣に向き合います。
- ・多方向からの新技術創出と既存のノウハウを合わせ、新分野への活用を進めています。

6つの強み



顧客ニーズに短納期で対応

「お客様第一主義」に徹し、常にお客様の様々な要求に応えることを追求します。社内の経営資源を最大限に活用し、品質、コストはもちろん、短納期で製品を提供し、お客様に喜んでいただく、これがトピアのミッションです。



高難度の製品を実現する最新設備

これまで世の中に存在しないモノを「形」にするため、常に世界中の設備メーカーが提供する最新設備の導入を積極的に推進し、より高い品質、高難度な製品を生産し、お客様の要望を具現化することを目指します。



卓越した技術力（成形、溶接、軽量化）

創業から今日までの企業成長の基盤にあるのは、成形技術、溶接技術、製品の軽量化技術など、他社を凌駕する様々な技術力により、お客様の要求に応えてきたことです。高度な設備と高度な技能者を有することで、新たなモノづくりを通じお客様へ価値を提供していきます。



国内外メーカーとの強固なネットワーク

創業以来、自動車をはじめ幅広い市場、多くの国々においてお客様の要求に応えてきました。この結果、グローバルに多岐にわたるビジネスを展開し、多くのお客様と信頼関係を構築することができました。これを経営基盤として、さらなる企業成長を目指していきます。



新たなモノを創造するチャレンジ精神

経営理念の一つである「チャレンジ精神」、今日のトピアは失敗を恐れず困難な技術的課題、未知へ挑戦し、これらを克服してきた結果であります。今後の成長も、創業以来変わらぬ「チャレンジ精神」を実践することにほかなりません。



エンジニアリングから 小ロット量産までワンストップ提供

これまでにないモノを「形」にするための『試作品』の製造にとどまらず、設計・デザインから製造、さらに自動車であればホワイトボディ (Body in White) まで、自社でワンストップで提供することが可能となっています。また、様々な小ロットの製品を量産する体制も構築しています。

サステナビリティ経営

基本的な考え方

トピアグループでは、持続可能な社会の実現に貢献し続けるための4つの重要課題（[マテリアリティ▶P.10](#)）を特定しました。

このマテリアリティをもとに、新たな事業機会の創出とリスクの低減を通じて、サステナビリティ経営の向上を図るとともに、全てのステークホルダーの皆様が幸福となることを目指し、企業価値を向上させてまいります。

サステナビリティ基本方針

CSR（企業の社会的責任）経営の側面を以下の3つの視点に分類し、「サステナビリティ基本方針」として定めています。試作品の開発・製造等を通じて、世界中の多種多様なモノづくりの発展に貢献することを目指しています。

サステナビリティ基本方針

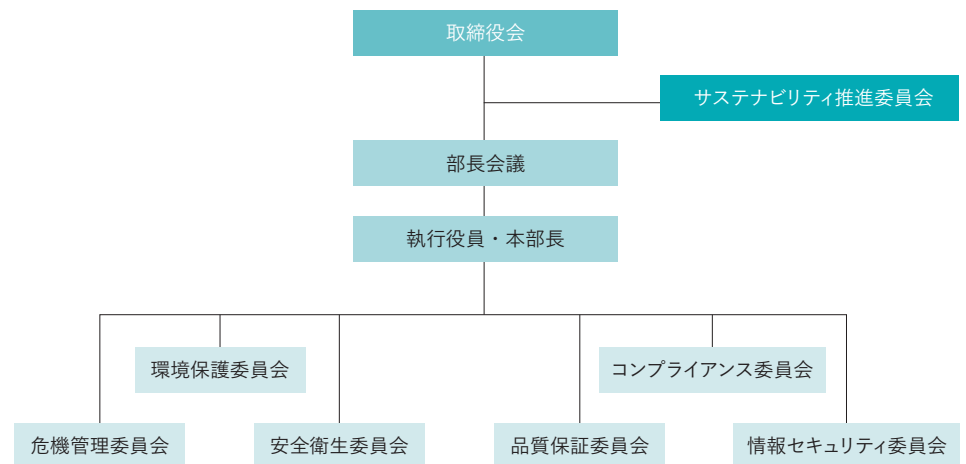
1. 環境負荷の低減（ネガティブの最小化）
環境配慮製品の開発、CSR経営の推進、循環型経済の実現
2. 経済への貢献（ポジティブの最大化）
イノベーションによる新技術の創出と顧客課題の解決
3. 従業員の幸福
対話や協働にて企業価値に寄与する人的ダイバーシティの追求

サステナビリティ推進体制

トピアは、サステナビリティ経営を推進するにあたり、2021年7月に代表取締役社長を最高責任者とする「サステナビリティ推進委員会」を設置しました。

サステナビリティの体制は、その下部にある「危機管理委員会」「環境保護委員会」「安全衛生委員会」「品質保証委員会」「コンプライアンス委員会」「情報セキュリティ委員会」といった6つの専門委員会と相互に連携を図り、定期的に各々の委員会を開催しています。「サステナビリティ推進委員会」は、各課題に対応した数値目標などについて検討し、その進捗をモニタリングし、グループ全体のサステナビリティ経営の実践を監督しています。

サステナビリティ推進体制



マテリアリティの特定

マテリアリティの策定プロセス

トピアグループは、事業活動と社会課題の関連性を明確にし、企業価値と社会価値の両立を目指すために「企業と社会の持続的な成長」の実現に資するマテリアリティの特定に取り組みました。具体的には、

- ①当社が取り組む意義があり、成果を上げることができる環境・社会課題
 - ②試作品の開発・製造を通じて取り組むことができる課題
- という2つの視点から、最終的にマテリアリティとなる候補を4項目選択しました。

STEP 1

社会課題の抽出・絞り込み

主要ガイドラインであるGRIスタンダード、SASBスタンダード、国連SDGsを参考に100を超える社会課題を抽出。社内外情報を参考に、特にトピアグループにとって関連性の高い項目のリストアップを実施。

STEP 2

自社およびステークホルダー視点での評価実施

客観性と多様性の面から幹部社員と社員約50名にアンケート形式で社会課題の重要度評価を実施。
自社視点では中長期的に経営計画に影響を与える可能性を挙げ、ステークホルダー視点では自然環境への影響、取引先や地域社会からの要望を考慮し評価を実施しました。

STEP 3

マテリアリティの策定

社長レビューを反映した内容を踏まえ、部長会議などの社内議論を経て、重要度が高いと判断したマテリアリティマップを策定。

STEP 4

マテリアリティの特定

最終的には取締役会においてマテリアリティを4つに絞り込み、決定しました。

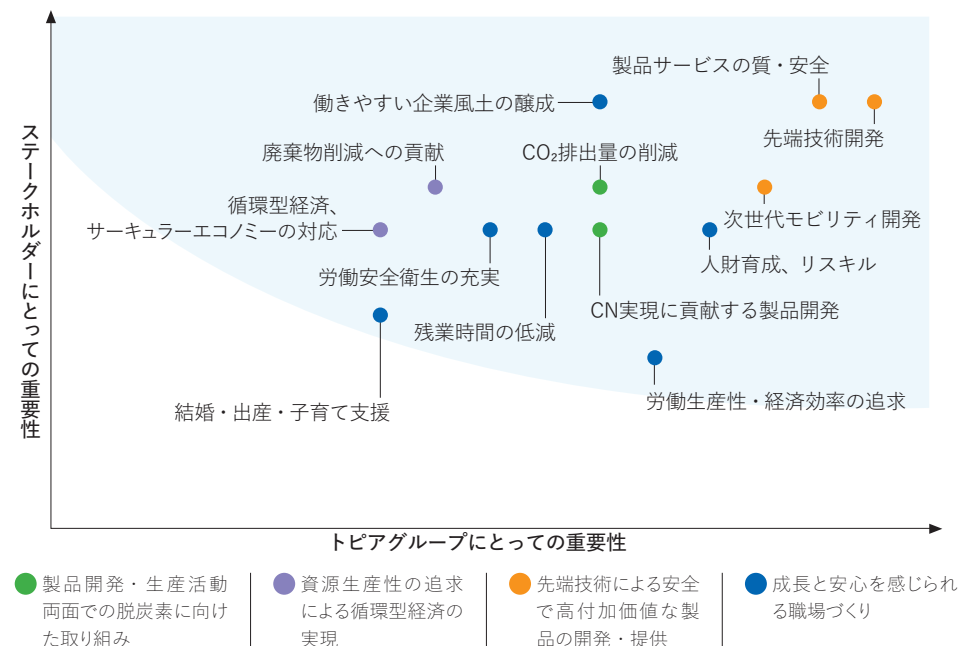
マテリアリティのマッピング

トピアグループでは、

- 1.「製品開発・生産活動両面での脱炭素に向けた取り組み」
- 2.「資源生産性の追求による循環型経済の実現」
- 3.「先端技術による安全で高付加価値な製品の開発・提供」
- 4.「成長と安心を感じられる職場づくり」

の4つをマテリアリティとして設定いたしました。

当サステナビリティレポートでは、4つのマテリアリティに沿った取り組みに加えて、事業の基盤となる人権への取り組みおよびガバナンスについて報告しています。



マテリアリティ

トピアグループでは、自動車をはじめ多種多様な工業製品の試作を行うにあたり、解決すべき4つの社会課題を定めました。時代が求める課題解決を進め、世界中の新たなモノづくりの発展に貢献し、社会が豊かになるサステナブルな未来の実現を目指しています。



事業活動を通じた 脱炭素社会への貢献

貢献するSDGs ▶



事業活動で発生する温室効果ガスの発生を低減させるため、再生可能エネルギーの導入など積極的に取り組んでいます。環境負荷を抑えることでカーボンニュートラルの実現を目指します。



循環型経済への貢献

貢献するSDGs ▶



事業活動で発生する廃材・鋼材のリサイクルに取り組んでいます。また、ペーパーレスやDXの取り組みを加速させ、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

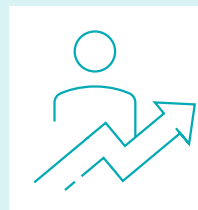


先端技術による安全で 高付加価値な製品の提供

貢献するSDGs ▶



全従業員の技術を向上させる教育体制・環境を構築することで、製品の付加価値を高め、自動車業界における安全性能の向上に貢献します。



成長と安心を感じられる 職場の実現

貢献するSDGs ▶



従業員が働きやすい環境づくりは、事業活動を円滑に行うために必要不可欠です。環境整備だけでなく、従業員自身の成長を促す取り組みを進めていきます。

マテリアリティに基づくKPIと目標値

マテリアリティ	リスク・機会認識	KPI	中期目標	戦略（対応策）	2022年度実績	2023年度実績
事業活動を通じた脱炭素社会への貢献 	【リスク】 カーボンニュートラル実現に向けた業界の動きに対応できないことによる事業コストの増加 顧客の信用低下 【機会】 カーボンニュートラルへの積極的な対応と開示による顧客の信用増加 顧客のカーボンニュートラルに貢献する新技術の開発による事業拡大	Scope1・2 排出量	2030年： 2021年度比21%削減	自社工場、事務所でのCO ₂ 排出量削減に取り組む 活動期間は2024年度からの7年間で年率3%総量削減	5,857t-CO ₂	6,928t-CO ₂
		Scope3 排出量 ZAS 購入率	10%以下の継続	試作金型製作時に使用する ZAS 材のリサイクルを強力に推進し、消費量に対し、新規購入の最小化に取り組む	10.6%	8.6%
		再生可能 エネルギー比率	2030年： 2021年度比 30% 増加	自社消費電力を再生エネルギー由来電力に積極的に切り替える	1.7%	3.2%
		車両EV率	2030年：HV、EV率100% (営業車両)	自社営業車を HV、EV 車に切り替える	80.0%	85.4%
循環型経済への貢献 	【リスク】 大量廃棄の継続による事業コストの増加 顧客の信用低下 【機会】 産業廃棄物削減、化学物質の負荷低減、大気汚染・水質汚濁防止、資源の有効活用を通じた循環型経済への貢献	廃棄物発生量 砂りサイクル率	95%以上の継続	試作金型製作時に使用する砂材のリサイクルを強力に推進し、消費量に対し、廃棄量の最小化に取り組む	96.9%	97.2%
先端技術による安全で高付加価値な製品の提供 	【リスク】 不適合品による顧客の信用低下 【機会】 多様な価値観や、社会課題に対応する安全、高品質な製品の開発による事業の拡大、顧客の信用増加	従業員一人当たり 付加価値額	2030年： 2021年度比 5% 増加	高付加価値な事業を通じた利益の最大化を目指す	63.8%	65.0%
成長と安心を感じられる職場の実現 	【リスク】 従業員のエンゲージメント低下による生産性の低下 人財採用コストの増加、採用難 【機会】 従業員のエンゲージメント向上による生産性向上 多様な価値観を持った人財の活躍による課題対応力の向上	女性管理職比率	2030年：20%	制度導入を進めるとともに、社内研修の実施等により、性別問わず実力を発揮できる職場の整備を進める	7.7%	7.5%
		男性育休取得率	2030年：85%		66.7%	38.5%
		労働災害件数	0 件	社内安全衛生のさらなる向上を図り、1 日以上の休業を要する労働災害をゼロとする	0件	1件
		時間外労働時間	2030年：25 時間／月	DX 等による業務効率化等を実施する	23.6時間	23.4時間
		日本語能力試験 認定率(N3以上)	2030年：75%	外国人従業員・実習生の日本語能力試験取得サポートを実施する	52.1%	32.3%

環境保護に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアでは、環境保護の取り組みとして、2007年11月にISO14001（環境マネジメントシステム：EMS）の国際認証を取得し、現在に至るまで更新しています。また2019年度以降、エネルギー管理士の提案・指導のもとに、さらなるエネルギー消費量削減活動を強化しています。

環境方針

基本理念

トピアグループは、地球環境を持続可能な状態に保つことが、人類にとって最も重要な課題であると強く認識し、事業活動を通じて、環境負荷の低減に向け、積極的に参加および推進を行い、人類と地球の未来に貢献します。

行動指針

トピアグループは、製品およびサービスを提供する事業活動を通じて以下の活動を推進し、基本理念の実現を目指します。

1. 環境関連法規の遵守
2. 省資源、省エネルギーの推進（脱炭素化社会への推進）
3. 循環型社会構築への貢献
4. 環境汚染の予防
5. 国際社会目標に向けた取り組み
6. 環境方針の推進
7. 環境方針の周知と理解
8. 環境方針の開示

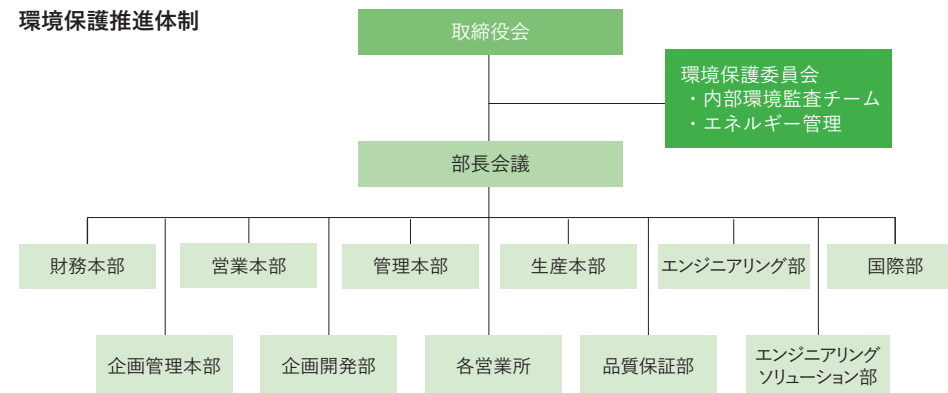
環境マネジメントシステム（EMS）

トピアでは、ISO14001（EMS）を取得後、地球環境に及ぼす悪影響を削減するため、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動に取り組んできました。さらに温室効果ガス削減に向けて取り組みを継続しています。



ISO14001登録証

環境保護推進体制



EMS 推進定例会

EMS 活動では、環境・安全・5S を項目とした社内パトロールを推進員により毎月実施しています。また、毎月 EMS 推進定例会を開催し、月次のエネルギー消費実績やパトロール結果などの情報共有を継続して行っています。



EMS 推進定例会

エネルギー管理定例会

エネルギー消費量削減活動の一環として、再生可能エネルギーの導入のほか、空調管理、各工場の消費電力量の見える化などの改善・提案を行っています。また四半期ごとにエネルギー管理定例会を開催し、各工場の責任者および関係者で情報共有を図り、改善に向けて取り組んでいます。



エネルギー管理定例会

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループでは、自動車業界をはじめとする幅広い業種・産業に対して試作品、製品を提供しています。「気候変動」への取り組みはどの産業においても重要視されており、今後の取引の「前提条件」となる可能性があるとして認識しています。自社工場での省エネ、太陽光導入等の生産活動での CO₂ 排出削減に加えて、当社グループの最先端技術・知識を活かして製品の軽量化、電動化などに寄与する製品開発を通じ、ステークホルダーの皆様とともにカーボンニュートラル社会の実現に挑戦していきます。

基本方針

【生産活動】

月次での省エネ活動のとりまとめに加えて、四半期ごとに開催するエネルギー管理定例会での報告・協議により、各活動についての PDCA 管理を実施しています。海外拠点においても、同様に四半期単位で各活動の PDCA 管理を行い、各拠点との連携強化を進めています。

【製品開発】

日々のお客様とのコミュニケーションを通じて要望・ニーズを正しく把握し、これらを素早く社内に展開し部門間での情報連携を図っています。トピアグループの強みである軽量化技術を武器に、お客様の要望を満足させ、かつカーボンニュートラルに貢献する製品の提案・開発を積極的に推進しています。

推進体制

トピアでは、2021 年 7 月に設置したサステナビリティ推進委員会（[「サステナビリティ 経営」P.8](#)）において、気候変動対応に資する重要な方針、取り組み事項を審議・決定しています。自社工場での生産活動における省エネ活動については、エネルギー管理士による提案・指導のもと、エネルギー管理を推進しています。

太陽光発電

トピアグループでは、国内外において積極的に太陽光発電システムの導入を進めています。2022 年度までに、日本国内で約 225kW、中国で約 1,208kW を導入しました。トピアグループ全体の使用電力量の約 8% を太陽光発電で賄っています。

今後、特に日本国内を中心に太陽光発電設備の導入を進め、国内の全使用電力の 30% を再生可能エネルギーで賄う計画であります。



本社工場に設置した太陽光パネル

工場省エネ・環境活動

社員一人ひとりの省エネや環境配慮への意識を高めるため、2013 年より表彰制度を導入しました。省エネ、環境活動の成果を EMS 推進員が毎月のパトロールにて評価し、年間で点数の上位の部門を表彰する制度です。2023 年度は、年間を通じて積極的に 5S への取り組みを重ねた部門が大賞を獲得しました。会社組織としての削減活動に加えて、社員が自主的に環境に配慮した行動を実践できるよう、引き続き制度の拡充を検討していきます。



工場での省エネ活動

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

製品の脱炭素化

トピアでは、自動車の燃費の向上に資する「軽量化」と「安全性・快適性」の両立に向けて、最新素材・技術をもとに試作品を製造しています。2022年4月には、住友重機械工業様が開発した自動車ボディ・フレームの画期的な製造システム「STAF」を世界で初めて導入しました。

この技術は、フレームを組み立てる際に不可欠なフランジ（つば状の部品）を、フレームと一体で成形できることが特長で、従来の構造と比較し約30%の軽量化を実現し、エアブローによる成形にてCO₂排出削減に寄与しています。

また、2024年2月には、新型のメカサーボプレス機を導入しました。設備更新によるエネルギー消費量削減に加えて、従来の設備と比較して、少ない原材料投入量での成形が可能となります。原材料削減、製品軽量化の観点で、取引先と当社双方のScope3排出量の削減にも寄与します。



製造システム「STAF」

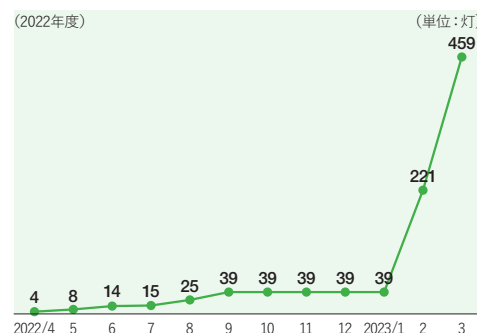


新型メカサーボプレス機

全工場のLED化

現在、トピアでは屋内外の照明のLED化を進めており、本社工場ではLED率100%を達成しています。

LED照明の灯数（累計）



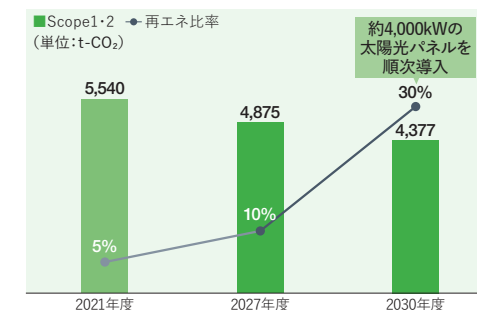
Scope 1・2・3の算定結果および削減目標

2023年度は、自社でのCO₂排出（Scope1・2）に加え、購入した原材料等からの排出も含んだバリューチェーン全体でのCO₂排出（Scope3）の算定を実施しました。

Scope1・2については、2024年度から2030年までに2021年度対比21%削減（年率3%削減）の目標を設定しました。

Scope3については、継続的な算定に向けて、特に割合の多いカテゴリであるカテゴリ1（購入した製品・サービス）やカテゴリ4（輸送・配送）についてシステム改修等を実施する予定です。

国内グループ 温室効果ガス(t-CO₂/年)削減目標



トータル梱包資材コストの削減

国内外への製品出荷における梱包工数の削減に取り組み、既存の段ボールに製品を詰め、輸送をしていましたが、サプライヤーより強化段ボール資材を用いて製品形状に追従した入り数の梱包資材の考案を受け、CO₂排出量削減に加え、トータルコスト削減を実現しました。

専用梱包となるため資材費は57%上昇しましたが、梱包作業費は55%、輸送費は40%とそれぞれ削減が図れ、トータルコストでは37%削減することに成功しました。また、輸送時のCO₂排出量としては8%（28.3t）の削減となり、これはスギの木1,000本が1年間に吸収できる量に相当します。

出荷用入り数改善提案



資材費
57% 増加



梱包作業費
55% 削減



輸送費
40% 削減



トータルコスト
37% 削減



輸送時CO₂排出量
28.3t 削減



ウレタン使用量
80% 削減

循環型経済の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループでは、環境方針の中に「循環型社会の構築」を掲げており、環境負荷低減を目指して効率的な資源・エネルギーの使用などを推進しています。

カーボンニュートラルの実現に向けて、産業廃棄物削減、化学物質の負荷低減、大気汚染・水質汚濁防止、資源の有効活用などを通じて、循環型社会の構築に貢献していきます。

CASE ①

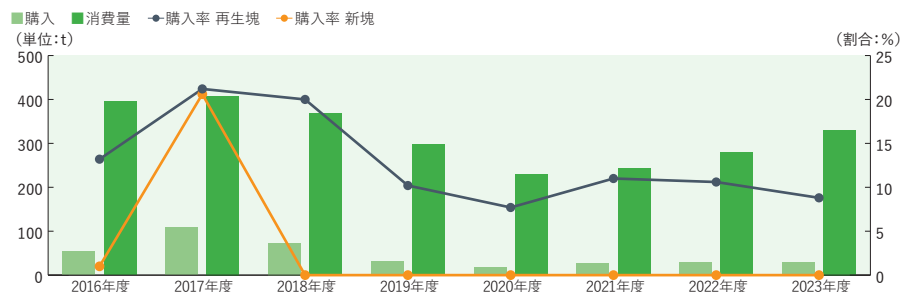
金型用亜鉛合金材（ZAS）の循環

自動車製造に欠かせないプレス成形では、量産型の場合、鉄・鋳物などの素材を使用していますが、製品化するまでにリードタイムもかかり、再利用もできません。トピアでは創業当初より、試作という比較的少量部品を製造しているため、自社の溶解炉にて ZAS 鋳造を行い、試作型を製作しています。これは、昨今の循環型社会に合致した取り組みを従来より行っていることになるとともに、ZAS を再利用することでコスト削減にもつなげています。



ZAS 鋳造に使用するトピアの溶解炉

ZAS の循環（平均値 / 割合）



工場におけるリサイクルの推進

「世界でひとつのモノづくり」であるトピアの試作品に欠かせないのが、金型です。金型製作方法の一つである ZAS 鋳造法には、ZAS と鋳物砂が必要となります。

ZAS はトピア設立当初より溶かして再利用をしています。鋳物用砂は廃棄処分をしていましたが、2012 年度より環境保護および廃棄物削減を目的に、ZAS 鋳造用砂を再利用するための設備投資を行い、廃棄物削減活動に取り組んでいます。

CASE ②

鋳造用砂の循環

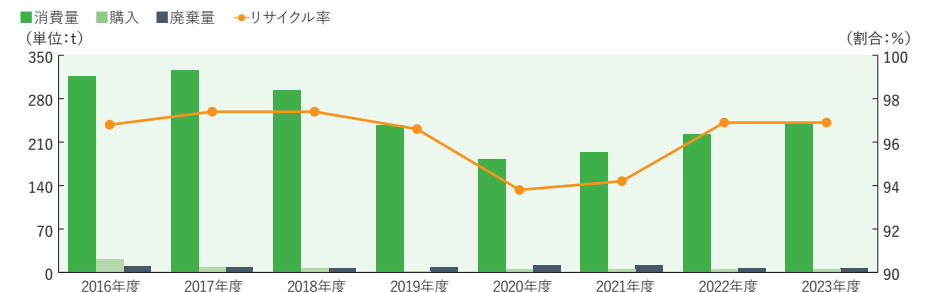
ZAS で金型を作る際、硬化剤を混ぜた砂で金型の周りを敷き詰める必要があります。この鋳造用の砂に混じった硬化剤は完全には砕けないため、そのまま埋め立てて廃棄するしかありません。

トピアでは、ランダムにブロック状になった使用済みの鋳造用の砂を攪拌機で粉碎して硬化剤を分離させ、砂を再利用しています。この再利用により、廃棄物削減に寄与しています。



鋳造用砂のリサイクル用攪拌機

鋳造用砂の循環（平均値 / 割合）



製品安全性確保に向けた取り組み（品質保証）

基本的な考え方

トピアグループは、現状に満足することなく常に技術力の向上およびモノづくりに関連する業務の質的向上に努め、お客様に満足していただける品質をつくり出すことを目指し、以下の「品質方針」を定めています。また、この方針に基づきグループ各社が公明正大にモノづくりを追求・実践し、ステークホルダーの皆様をはじめ世界中から信頼される企業を目指していきます。

品質方針

基本理念

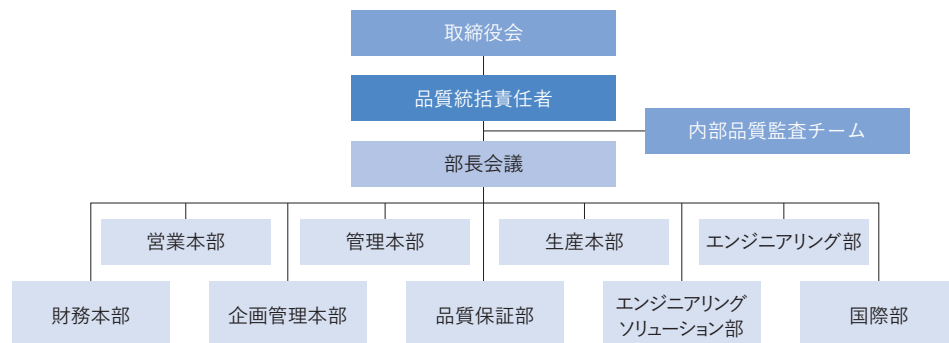
トピアグループは、「絶対品質」を品質の理念とし、より高い技術力と業務の質の向上に努め、お客様に満足と信頼の品質を提供できる企業を目指します。

行動指針

トピアグループは、製品及びサービス提供の事業活動を通じて、以下の活動を行います。

1. 顧客要求事項及び法令・規制要求事項を遵守します。
2. 品質目標を達成するために、品質目標を設定し、改善を進めます。
3. 製品及びサービス提供の業務プロセスの質を重視し、継続的な改善を行います。
4. 品質方針は、社内に掲示し、従業員に理解と周知徹底を図り、品質意識の向上に努めます。

品質保証体制



行動指針

トピアでは、品質マネジメントに関する取り組みとして、2009年8月にISO9001(品質マネジメントシステム)を、また2011年7月にJIS Q 9100(航空・宇宙および防衛分野における品質マネジメントシステム)の国際認証をそれぞれ取得し、現在に至るまで更新しています。また、製品およびサービスの安全性確保・向上を図るため、以下の活動を実施しています。



ISO9001 登録証 JIS Q 9100 登録証

品質工程パトロール

各作業現場において、品質への取り組みはもちろん、5Sや環境、作業意識を品質工程パトロールにて確認し、改善事例などを全部門で共有しています。



品質教育活動

品質統括責任者の主導のもと、品質向上を目的とした教育テーマを適時定めています。このテーマに沿って、各部門長が随時、部員に対する教育を実施し、品質に関する意識の底上げ、知識の向上を図っています。



品質スローガン募集

毎年、全従業員より品質標語（スローガン）を募集し、最優秀賞1作品を社内各エリアに掲示しています。また、優秀賞8作品、入選10作品、佳作20作品を厳選し表彰するなど、一人ひとりの品質意識向上に努めています。



高付加価値製品の開発

基本的な考え方

世にないモノを「形」に

お客様のニーズを具体的な工法へ落とし込み、最適な設計・開発の提案および部品や材料の調達を行い、自社工場で生産します。その品質の担保まで行うという「形」までの一連のステップを、トピア独自の技術と責任で良い製品を社内一貫体制で提供し、高度な要求や課題解決にも迅速に対応することを可能としています。

多様な設備

一点ものから多品種小ロット生産までを実現

バーコードによる生産情報の一元管理を実施しており、毎月 1,000 種類を超える製品を製造し、「いつ」「誰が」「どの工程を」「いつまでに」完了させるかをリアルタイムに確認する進捗管理に加え、蓄積した生産情報をもとに、工程管理や原価管理が可能となっています。社内の設備を複合的に用いることにより、ほかでは成し得ないモノづくりを実現し、様々なお客様のニーズに対応しています。



接合ライン

トータルプロダクト体制の確立に向けて

単品から組立に至るまでの設備力と製造力

要求レベルの高い国内外大手企業との長年の取引実績に裏打ちされた、製品の提供を行っています。

業界トップレベルの短納期と品質を担保できる生産・品質管理技術と体制を整備し、設計から製造、品質管理までワンストップでバリューチェーン全体をカバーできる高度な対応力を備えています。



BIW (Body in White)

コスト性に優れた軽量化を提案

多種多様な製品の軽量化を提案

自動車業界を中心に、複数領域に精通した経験豊富な設計者と技術者により、軽量化を提案します。お客様のニーズを実現するため、最適な生産設備、検査設備、治具やシミュレーションを内製化し、工法検討・金型設計・治具設計の同時進行や、材料・設備メーカーとの協働により、高品質・短納期・低コストを実現します。

小ロット生産への対応

小ロット生産に対応できる生産体制を整備

試作に特化したものから、小ロットにも対応した国内外の最新設備を複数導入し、多品種小ロット生産を実現しています。

各工程において加工技能者の育成に注力するとともに、CAD/CAM 専任の技術者が多数在籍し、試作だけにとどまらず多品種小ロット品も社内一貫体制で対応し、低コストかつ短納期を実現しています。

技能者の育成

ほかにはない「トピアブランド」の提供

技能研修制度、品質管理規定などの資格取得支援や、外部教育機関の活用、OJT に注力しています。難易度の高い仕事については、物理的、技術的な課題を克服し、高付加価値製品の提供のため、国内外で技能者の育成に取り組んでいます。



特集 社内公募デザインをベースに、オリジナル EV を試作

世界に誇れる「ひとつのモノ」を提供します。

テーマ ユートピアの車：可能とするミライへ…

2022 年、デザインを社内公募から厳選したものを実車に。

デザイン、設計から金属加工、樹脂加工、組立治具に至るまでの全てを社内で一貫生産し、材料特性に精通した技能者集団が組立までを最適な工法で検証し実現しました。トピアの蓄積された技術は企画開発から手掛けるコンストラクターの領域に達しています。

開発部門長メッセージ



株式会社トピア
常務取締役
杉浦 智寿

トピアは持続可能な未来に向けて走り続けます

今回はイメージを具現化するという単純なものではなく、「次世代に向けた魅力ある電気自動車を社内で作れる企業」といった使命を持ち、全社一丸となって完成させることができました。よりオリジナリティを出すために社内でデザインを募集し、当社の一人ひとりがトピアのイメージを絵にし、曲線を中心とした伸びやかなスタイルにまとめました。

先端素材であるカーボンSMCやホットスタンプ材の採用、多種多様な溶接機や異種材接合機の使用、住友重機械工業(株)開発のSTAF設備による製法を取り入れるなど、まさにトピアの設備と技術の結晶の見える化と言っても過言ではありません。完成車は各地の展示会に出展され、来場された方々からも高い評価をいただきました。これにより、『EVに不可欠な軽量化技術に特化した会社』としての認知度が一気に高まり、プロジェクトの達成感で満たされました。今後も新たな開発の種を探求し、具現化していきます。

数多く寄せられた
社内公募デザインの審査から



完成したオリジナル EV「Grand HUV0」

多様な人材が働きやすい環境づくり（労働安全衛生）

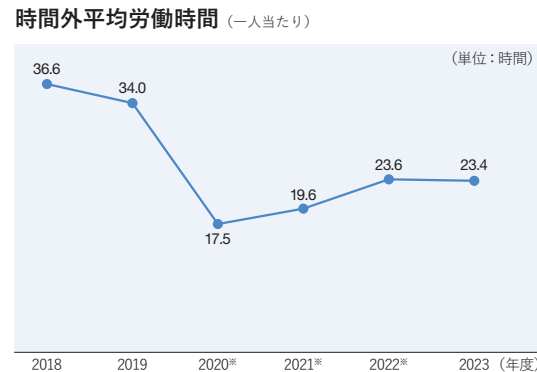
基本的な考え方

トピアで働く全ての人および地域社会の安全・健康への影響を最小限となるよう、企業活動の中で安全衛生管理を徹底し、働きやすい環境づくりを目指します。

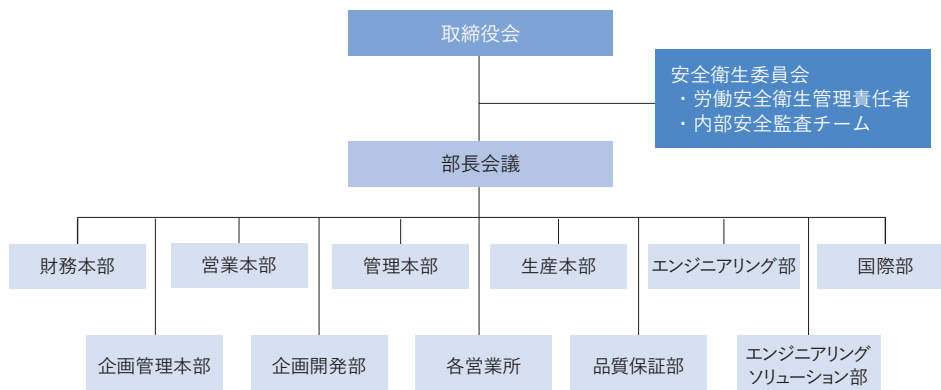
健康経営の推進

残業申請承認システムを構築し、36協定の遵守はもちろん、時間外労働管理の厳格化を図り、全従業員の健康増進に努めています。

※ 2020～2022年度の3ヶ年においては、コロナ感染症の影響により一時的に時間外労働時間が減少しました。



安全衛生体制



防火・防災への取り組み

定期的な避難訓練および救急救命講習を実施し、災害発生時に適正・適切な対応ができる環境を整えています。また工場内の見回りを毎月実施し、災害時のリスク低減を図っています。



防災訓練の様子



救命講習の様子

労働安全衛生への取り組み

製品および材料の運搬に関して、適切な方法の遵守を徹底し、落下・転倒災害の防止を図っています。

外部コンサルの指導を受けてリスクアセスメントの体制強化を図り、職場の危険因子を取り除くよう努めています。



フォークリフト安全講習の様子

交通事故防止への取り組み

交通安全週間に合わせて、出勤時の交通安全パトロールを年4回実施し、従業員の交通安全意識向上と交通ルールの遵守を徹底し、交通事故防止を図っています。



交通安全パトロールの様子

多様な人財が働きやすい環境づくり（ダイバーシティ推進）

基本的な考え方

トピアグループでは、不当な差別の禁止を掲げています。従業員一人ひとりがお互いに人格・個性を尊重するとともに、人種、宗教、国籍、性別、年齢、障がいの有無などに関わらず、公平な人財の登用や活用を推進しています。

女性の活躍推進

トピアグループでは、良好な職場風土の醸成や各種制度の充実を図り、出産・育児と仕事を両立しやすい環境づくりに取り組んでいます。例えば、育児短時間勤務制度の利用期間について法定を上回る「小学校就学までの期間」としています。また、2030年までに、グループの管理職に占める女性の割合を20%に増加させることを目標としています。

育児休業取得率

	男性	女性
2021年度	42.9%	100.0%
2022年度	66.7%	100.0%
2023年度	38.5%	100.0%

障がい者雇用の取り組み

トピアでは、障がい者も健常者も共にいきいきと働ける職場づくりを目指しています。2023年度の障がい者雇用率は、法定雇用率2.3%を達成しています。会社生活や日常生活での悩み相談などは社内のみならず、外部の協力も得て解決しています。

障がい者雇用率

	法定雇用率	実績
2020年度	2.0%	2.1%
2021年度	2.1%	2.1%
2022年度	2.2%	2.2%
2023年度	2.3%	2.3%

外国人従業員の活躍推進

トピアでは、外国人従業員の比率が1割以上を占めています。日常会話が可能なJLPTのN3レベルの取得を目指し、週2回、時間外に外部講師を招いて日本語教育を実施しています。さらなる日本語能力の向上を目指す従業員には、N3以上の資格獲得のための教育も用意しています。

また、業務マニュアルおよび社内ルールの多言語化や画像を活用し、全員が一丸となって活躍できる職場環境や企業風土の構築を進めています。



VOICE



拓彼亜機械科技
(常熟) 有限公司
部品部
沈次長

日本での技能研修を経て海外拠点でチームを養成

新しいこと、特に日本の高品質な製品がどのように作られているかに興味があり、研修に参加しました。言葉の不安はありましたが、綿密な教育計画のもと、トピアの企業文化の豊かさ、そして皆さんの責任感の強さと規則を守って一生懸命に業務に携わっていることに感動しました。

帰国後は技術担当者のチームを養成しました。仕事の目標を明確にすることの大切さを学び、モノづくりの理解が進んだことを、現在の業務上で原価低減に活かしています。

成長を実現する職場づくり（人的資本経営）

基本的な考え方

トピアでは創業以来、経営理念（野鳩の精神、救急病院の責任感、チャレンジ精神）が、従業員の意思決定する際の判断基準となっています。この経営理念に基づいて行動することにより、業務が効率化され、成長の原動力につながると考えています。

全社一斉清掃

トピアでは、毎月1回、国内の各拠点を含めた全社一斉清掃を実施しています。

全従業員で行うこの清掃活動の範囲は、トピア社内の敷地はもとより、周辺地域まで広げて実施しています。



あいさつ運動

トピアでは、コミュニケーションの活性化の一環として、毎年6月、10月を「あいさつ強化月間」と定め、それぞれ1週間、幹部社員と新入社員が当社敷地入り口に整列し、始業前の従業員に対し進んであいさつする活動を行っています。

普段から自らが進んであいさつすることを実践する企業風土を醸成することにより、職場や取引先をはじめ様々な関係者との円滑な業務遂行にもつながるものと考えています。



教育・研修制度

アクションプラン

トピアでは、入社2年目以降の従業員向けに、毎年の社長方針に基づいた各部署の方針・テーマに関連した自身の成長戦略を掲げる育成制度を設けています。各テーマに対し上長は部下に求める課題を与え、目標達成に向け年3回の上長との面接を実施し、従業員の育成を図っています。



研修生教育制度

トピアでは、入社1年目の新入社員を研修生として戦略的に育成することとしています。安全・品質・5Sなどをテーマとした月1回のディスカッションを行い、「気づきの感性」の体得に努めています。

この取り組みを通じ、社会人としての心構え、今後モノづくりを行っていく上で必要不可欠である知識などを早期に習得することを目指しています。

VOICE



TPAM INC.
Engineering Div.
Engineering Assistant
出口さん

アメリカへの短期派遣で幅広い実務を体験

入社当時は漠然と海外で働きたいという思いがあり、本社での経験を精一杯発揮できる良い機会と思いました。

日本とアメリカではお客様の要求が異なり、アメリカでは品質規程を引き出していく必要が多いと感じました。最大の特徴は、任せてもらえる業務の範囲が広いことです。配属部署以外の仕事も、現在の部署での仕事に役立っています。

日米両国での業務に違いはありますが、ゴールは同じです。今回お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れずに、さらに精進していきたいと思っています。

社会への貢献

基本的な考え方

1973年の創業以来、トピアは近隣地域の皆様に支えられ成長を遂げてきました。今後も地域社会と密接にコミュニケーションを図り、「人・社会」が共に豊かになる社会貢献活動に取り組んでいきます。

インターンシップの受け入れ

トピアでは、近隣の学生を対象として、インターンシップを実施しています。学生の将来のキャリア選択の一助となることを目指し、トピアでの最先端技術や設備を実際に体験し、試作というモノづくりに挑戦してもらうプログラムを用意しています。



インターンシップの様子

地域スポーツチームへの協賛

三重県に本社を置くトピアでは、2017年より伊賀FCくノー三重、2021年よりアトレチコ鈴鹿クラブ等、地域スポーツチームへの協賛活動をしています。これからも、スポーツを通じた地域の活性化や若い方々の育成を応援していきます。



第2回トピアマッチデーの様子（2023年9月開催）



足踏み式消毒液スタンドを寄贈

鈴鹿および四日市市役所や鈴鹿市医師会ならびに近隣地域へ、トピアオリジナルの消毒液スタンドを製造・寄贈しました。この消毒液スタンドは、コロナ禍で苦しむ医療機関や行政機関に何らかの手助けができないかとの思いで設計から生産までを行い、合計300台を寄贈しました。



鈴鹿市役所にて



四日市市役所にて

地域社会とともに成長する企業づくり

三重県SDGs推進パートナーとして、SDGsへの取り組みを推進しています。また「地域未来牽引企業」に選定されており、地域社会とともに成長する企業づくりを使命と考えています。



コンプライアンス

トピアでは、経営理念を実践し企業価値の最大化に向けて、全てのステークホルダーの皆様と良好な関係を築き、長期的な安定成長と発展を目指しています。

国際社会から信頼される企業として、公正で透明性の高い経営を展開することが重要と考え、コンプライアンスの遵守に取り組んでいます。

コンプライアンス教育

トピアでは、従業員が常にコンプライアンスを意識した行動ができるよう、教育・啓蒙活動を行っています。

2023 年度は、従業員の 90% が外部講師によるコンプライアンスに関する教育研修を受講しました。

また、啓蒙活動については、広報物を共用エリアに掲示し、コンプライアンス意識の向上を図っています。



コンプライアンス教育

腐敗防止への取り組み

トピアグループは、高い倫理観を持って健全かつ公正な事業活動の実践に努めています。贈収賄や違法な政治献金・寄付、あるいは脅迫・強要・横領などの違法・不当な手段で利益や便宜を供与したり、マネーロンダリング、不正な国際送金あるいは反社会的勢力への資金提供などに関与することがないよう、事業活動を行うすべての地域・国における腐敗防止に関する法令の遵守に努めています。

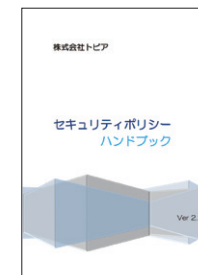
リスクマネジメント

多様化するリスクを最小化する内部統制の一環として、リスクマネジメントの強化に取り組んでいます。

外部環境の急激な変化など成長を阻害する可能性のあるリスクを把握し対策を講じ、事業継続力の強化に努めています。

情報セキュリティに関する取り組み

トピアは、情報資産の適切な取り扱いを重要な経営課題と捉えています。具体的な活動としては、セキュリティ（システム・データ・物理的）を確保するための「セキュリティポリシー」の策定および体制の構築、セキュリティ認証（TISAX）の取得、新技術の導入、さらには従業員への教育と意識向上に努めています。



全社員に配布した
セキュリティポリシー
ハンドブック

事業継続計画（BCP）に関する取り組み

大規模地震やパンデミック等の災害が発生した場合に備え、「事業継続計画書」として明文化しています。この計画書に基づき、重要な事業活動を中断させない、また中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針・手続き・運用体制の構築方法等を明示すること

で、従業員の身体・生命の安全を確保し、優先的に継続・復旧すべき重要業務とその早期復旧に対処します。



トピア社内の売店。
備蓄品や社内安全確認の拠点として機能



事業継続計画書